

説教題：ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにいますか？

鍵となる聖句：マタイ 2：2 - 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」

皆さん、おはようございます。そして メリー・クリスマス！今日、ここで皆さんにお目にかかれてうれしいです。この数週間、私たちは主イエス・キリストの到来、ベツレヘムでの救い主の誕生を待ち望みながら、アドベントの季節の各週を迎えてきました。昨夜はクリスマスイブ礼拝があり、ペンドルトン牧師による大変素晴らしいプログラムが行われました。私たちはイエスの誕生を祝いましたが、今日もそのお祝いを続けます。

ベツレヘムの馬小屋の光景は、私たちにとってとても身近なものです。赤ん坊のイエスがお母さんのマリアとヨセフによって飼い葉桶に寝かされ、そのそばにヨセフがいます。ルカの福音書によると、羊飼いたちが野原で羊の群れを守っていると天使が現れ、「救い主、すなわち主キリスト」の誕生を告げた（ルカ 2：11）。そこで彼らは急いで馬小屋に行き、マリアとヨセフと赤ん坊のイエスを見つけました。マタイの福音書 2 章では、「マギ」と呼ばれる賢者が幼子イエスのもとを訪れたことが記されています。イエスがお生まれになった夜の馬小屋の様子を描いた絵には、通常、今説明したようなイメージが含まれています。確かに、これらはすべて物語の重要な部分です。しかし、実は、賢者マギの訪問は、キリストの誕生から 1、2 年後まで行われなかったのです。今日のクリスマス・メッセージでは、キリスト誕生の後の物語、東方から旅をしてきたマギがエルサレムに到着し、「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられますか？」と尋ねる物語に焦点を当てたいと思います。その問いが、今日のメッセージのタイトルです。

マタイの福音書 2 章 1 - 12 節を読みましょう。 - ¹イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。 ²「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」 ³それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。 ⁴そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。 ⁵彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。」 ⁶『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治

める支配者が、あなたから出るのだから。』(旧約聖書の預言者マラキ書5章2節と4節から)」⁷そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。⁸そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」⁹彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。¹⁰その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。¹¹そしてその家には行って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。¹²それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

この部分は、キリストの誕生から1、2年後の話であることは、先ほどお話ししました。キリストが誕生したとき、賢者マギたちは、故郷で何かの星を見ます。それがユダヤ人の王が誕生したことを意味するのだと何となく理解し、エルサレムへと旅立ちます。誕生からしばらく経ち、ベツレヘムに着いたとき、マリアとヨセフはもう馬小屋にはいませんでした。この物語の全体像をもう少し詳しく見てみたいので、メッセージを以下の部分に分けてお伝えします。

1. 賢者「マギ」たちとは、どのような人たちでしょうか。
2. 異邦人を見よ。
3. ヘロデとエルサレム全土は、なぜマギに質問されて困惑したのでしょうか。
4. ユダヤ人の王として生まれた方は、どこにおられるのでしょうか。

パート1：賢者「マギ」とはどのような人たちでしょうか？

ここで使われているギリシャ語は「マゴイ (μάγοι)」で、これは「マゴス (μάγος)」という言葉の複数形です。私が使っている New American Standard Bible の脚注には、マギについてこのように記述されています。「天文学、占星術、自然科学を専門とする教養人たちの集団」。1節に彼らは「東方から」来たとありますが、私のレクザム聖書辞典にはこのように書かれています。「古代ギリシャの歴史家ヘロドトスは、古代メディアとペルシャの祭司の階級を表すのにマゴイという言葉を使った。」

なぜ、そのような人たちがユダヤの王に興味を持ったのでしょうか。旧約聖書の歴史を思い起こせば、神に選ばれた民はしばしば不従順であり、神は彼らを厳しく裁かれることもありました。北イスラエルはアッシリアに征服され、捕虜となり、南ユダは征服され、バビロンの捕囚となりました。そして、バビロンの支配者たち、後のメディア・ペルシャに大きな影響を与えました。旧約聖書のダニエル書には、ダニエルとその友人3人がバビロンの王に仕

えるようになったことが書かれています。また、ネヘミヤ記やエステル記には、メディア・ペルシャに征服された後、この地方に住んでいたユダヤ人たちのことが書かれています。やがてペルシャのクロス王は、ユダヤ人がユダの地に戻ることを許しました。しかし、多くのユダヤ人はメソポタミアに留まることを選択しました。彼らはペルシャ帝国の宗教事情に影響を与えたようで、マギはユダヤ人のメシアへの希望を聞いた可能性があります。神は、占星術や天文学に傾倒していたマギに、夜空に特別なしるしを与えようと望まれたのでしょう。ユダヤ人のメシアへの憧れを知っている人なら、この「ユダヤの王」という称号がメシア的な称号であることを知っていたでしょう。

そして、マギはこの王を探すために東方からユダヤにやってきたのです。教会の伝統は、このマギについて、実際には聖書に書かれていないイメージをいくつか与えています。例えば、この人たちを3人の王と表現したのを聞いたことがあると思います。しかし、彼らは王ではありませんし、3人でもありませんでした。しかし、彼らは非常に重要な人物であったことは確かです。おそらく、3つの贈り物と書かれていることから、人々は3人のマギがいるに違いないと思い、それぞれが1つの贈り物を提示したと考えたのでしょう。実は、エルサレムに到着した一行は、3人という少人数ではありませんでした。このマギは東方からかなりの大所帯で旅をしてきたはずで、遠い国からこれだけの長旅をするためには、それなりの人数が必要だったはずで、

マタイの福音書2章1と2節をもう一度読みましょう。 - ¹ イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。 ² 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」

そして、11節 - そして、その家に入ってから、母マリアと一緒にいる幼子を見たので、ひれ伏して拝んだ。そして、自分たちの宝物を開いて、金、乳香、没薬を贈り物にした。金は王権を、乳香は神を、没薬は苦難と死を象徴しています。

この賢者たちは、ユダヤの王を礼拝するために遠い国からやって来たのです。この東方の尊敬すべき異邦人たちが、メシアの誕生の空のしるしを理解し、メシアを礼拝するためにはるばるユダヤまでやってきたということは、私にとって驚くべきことです。そして、記録に残る最初のイエスの礼拝者が異邦人であったことも、私にとって驚くべきことです。近年、このマギはメソポタミアに住んでいたユダヤ人であったという説を発表する学者もいることは知っていますが、今日でもほとんどの聖書学者は彼らを異邦人と見なしています。イエスを最初に礼拝したのが異邦人であったということは、私にとって驚くべきことです。

パート2：異邦人を見よ。

旧約聖書を何度も読み返すうちに、神がいかに異邦人を愛しておられるかということを感じます。私は子供の頃から、人間にはユダヤ人と異邦人の二種類があり、前者は神の計画の中で中心的な位置を占める「選ばれし民」であるという考え方を教えられてきました。旧約聖書には、イスラエルの子らが異邦人とは異なる存在であることが書かれています。しかし、旧約聖書を最初から最後まで読むと、意外なことに、いくつかの点に気がつきます。それは神は異邦人をも愛しておられることです。そこで異邦人について少し話をさせてください。今日のこの説教はユダヤ人の王についてですが、神がユダヤ人以外も大切にされているということでもあります。

例えば、アブラハムの息子イサクは、神がその計画を実現される「約束の子」ですが、アブラハムのもう一人の息子イシュマエルにも創世記 16:10-12 と 21:18 で祝福と約束が与えられています。イシュマエルは神の計画から外れて生まれましたが、それでも神はイシュマエルに祝福を与えています。もう一つの例を挙げましょう。モーセはミディアンの祭司エテロの娘と結婚しますが、このミディアンの祭司はすでに真の神ヤハウェを知っていたようです。この話については、出エジプト記 2 章と 3 章などを参照してください。ミディアン人は選ばれた人々ではありませんでしたが、少なくとも彼らの中には真の神を知っている人がいたのです。そして、3 つ目の例はこれです。神は預言者ヨナを送って、アッシリア帝国の首都であるニネベの町にメッセージを与え、悔い改めなければ破滅に直面すると告げます。彼らは悔い改めることを選び、神はその町を救われました。このような旧約聖書の物語は、神が異邦人をもイスラエル人と同じように愛しておられることを教えてくれます。

実際、創世記 12 章でアブラハムが初めて神に召されたとき、神は 2 節と 3 節で次のような約束をされています。 - そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。³あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

そして、あなたにおいて、地上のすべての家族が祝福されるのです。

神が一人の人間、そしてその人間から一人の国民に焦点を当てた目的は、実は地上のすべての家族を祝福するという計画の一部だったのです。

そして、イスラエルがしばしば忠実でなかったにもかかわらず、神はエレミヤ 31:31-34 で、彼らと新しい契約を結ぶと約束されたのである。 - ³¹見よ。その日が来る。——主の御告げ。——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。³²その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。

——主の御告げ。——³³ 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。
——主の御告げ。——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。³⁴ そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——主の御告げ。——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

そして、マタイの福音書 1 章 20 - 21 節の物語の始まりは、このようです - ²⁰ 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。²¹ マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

イエス」という名前は、「ヤハウエが救う」あるいは「エホバが救う」という意味で、ご自分の民を罪から救ってくださるということです。その民とは誰のことでしょうか。もちろん、これはユダヤ人のことを指しています。しかし、この救いはユダヤ人だけに限定されるものではありません。このことを示すために、新約聖書の多くの箇所を紹介することができますが、ここでは二つの箇所だけを紹介しましょう。

マタイ伝の最後に、イエスは弟子たちに大宣教命令を与えられます。マタイ 28:19-20 - ¹⁹ だから、行って、すべての国の人々を弟子とし、父と子と聖霊の名によって洗礼を受け、²⁰ 私があなたがたに命じたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。そして、わたしは、時代の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる。」

イエスは使徒たちに、すべての国の人々を弟子にするように命じています。これは彼らのへ宣教命令であり、この時代の私たちへの宣教命令でもあります。福音のメッセージは、すべての国の人々のためのものです。ユダヤ人の王であるイエスは、すべての国民に福音を伝えるようにと指示されています。

ローマ人への手紙の中 1 章 15-16 節で、パウロはローマにいる人々に言っています - ¹⁵ ですから、私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。¹⁶ 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」

もちろん、福音のメッセージはまずユダヤ人に向かいますが、それはギリシヤ人のためでもあります。この「ギリシヤ人」という言葉は、新約聖書ではユダヤ人以外の人、つまりこれは異邦人を意味する言葉です。パウロが宣教の旅に出た先々で、まずシナゴグに行ったのは、ユダヤ人なら福音のメッセージを理解するための背景情報を持っているからです。しか

し、彼は異邦人にも目を向けました。それは、使徒の働き 9 章のダマスコの道での回心により、イエスが彼に与えた使命だったからです。

使徒の働きにあるように、何千人ものユダヤ人が福音を受け入れましたが、悲しいかな、多くのユダヤ人も福音のメッセージを拒否しました。彼らはユダヤ人の王を拒否しました。パウロはその事実に対する苦悩をローマ人への手紙 9 章 1-5 節に記しています。その箇所は読みませんが、そこにパウロの同胞であるイスラエル人への思いが表れています。

[ローマ 9:1-15 - ¹私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。²私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。³もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。⁴彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。⁵先祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。]

ローマ 9 章、10 章、11 章は興味深い聖書の部分です。そこでパウロは、イスラエルの運命、神の民の選び、異邦人の包含、そしてイスラエル人のためのもう一つのチャンスについて論じています。11 章は非常に興味深いです。11 節と 12 節を読んでみましょう。パウロは、イスラエル人がキリストを拒絶したことによって、異邦人への道が開かれたことを述べています。- ¹¹では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょう。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。¹²もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。」

異邦人が救いの計画に含まれ、多くの異邦人がそれを受け入れたので、ユダヤ人たちは嫉妬しました。しかし、もしこれが異邦人にとって素晴らしいことなら、実は、福音を受け入れるユダヤ人にとってはもっと素晴らしいことになります。それでは、次の箇所を読んでみましょう。

14 節と 15 節 - ¹⁴そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。¹⁵もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。」

ここには、イスラエル人が嫉妬に駆られ、やがてイエス・キリストの福音を受け入れる者が出てくることが暗示されています。そして、この言葉の後に、オリーブの木の枝が折られ、野生の木の枝が接ぎ木されるという興味深い挿話があります。折られた枝は福音を拒否したイスラエル人を表し、接ぎ木された枝は異邦人を表しています。そして、パウロは 18-21 節で異邦人の聴衆に対してこのような警告をしています。- ¹⁸あなたはその枝に対して誇っては

いけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。¹⁹枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。²⁰そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。²¹もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。」

私たち異邦人は、ユダヤ人が福音を受け入れなかったからといって、傲慢になってはいけませんし、うぬぼれてもいけないのです。また、自己満足に浸っていてもいけません。また、ユダヤ人がキリストを拒絶したからといって、迫害することもしてはならない。20 節 - 驕ることなく、恐れなさい。なぜなら、接ぎ木された枝を断ち切るのは至極簡単なことで、私たち異邦人はチャンスを失うかもしれないからです。傲慢にならず、謙虚でいましょう。

23 - 24 節はイエス・キリストをまだ信じるに至っていないイスラエルの人々のことが示されています - ²³彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。²⁴もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のもは、もっとたやすく自分の台木につがれるはずです。」

もしイスラエル人が不信仰に固執せず、キリストを信じるようになれば、再び接ぎ木することができるのです。そして実際、教会の歴史の中で、数多くのユダヤ人がイエスがメシアであることを悟り、イエスを受け入れたのを私たちは目にしてきました。

では、25 節と 26 節の最初の所を読みましょう - ²⁵兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようになるためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり ²⁶こうして、イスラエルはみな救われる、ということです…」

「イスラエル人の一部がかたくなになった」のは「異邦人の完成のなる時まで」であり興味深いのは、異邦人の完成のなる時まで・・・それから多くのイスラエル人が救われるのです。26 節は、イスラエル人が一人残らず救われるという意味ではないと、学者たちは教えています。しかし、神が王国に望んでおられるすべてのイスラエル人は、キリストを主であり救い主として受け入れるのです。

さて、このクリスマスの朝、私はクリスマスの話からずいぶん遠回りをして、異邦人について話をしました。これは、私が長い間考えてきたことであり、その思いを皆さんと分かち合いたいと思ったからです。私は、ユダヤ人に約束された新しい契約に、私たち異邦人が組み入れられたことに大きな感謝を感じています。そして、より多くのユダヤ人がイエス・キリストを自分の主、救い主として受け入れてくれることを期待しています。

さて、ここで生まれたばかりのユダヤの王を探していたマギの話に戻りましょう。マタイの福音書2章の冒頭部分を読んでみましょう。以下は1節から3節までです。 - ¹ イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。² 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」³ それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。」

パート3: ヘロデとエルサレム全土は、なぜマギに質問されて困惑したのでしょうか。

この時期のユダヤの政治状況の背景を少しお話ししましょう。ユダヤはローマ帝国が支配しており、ヘロデを王として据えていました。ヘロデ大王はイスラエル人ではありません。彼はイドメ人と呼ばれるイスラエルとはつながりのある民族出身でした。彼は政治的に聡明で、手に負えないユダヤ人をコントロールすることができたので、ローマ帝国は彼を好みました。しかし、彼はライバルを恐れる偏執的な支配者でもありました。彼は、妻の一人を処刑し、その二人の息子を殺させました。それは、彼らが自分に対して陰謀を企てていることを恐れたからです。一方で、エルサレム神殿の全面改修など、偉大な建築プロジェクトに着手しました。そのため、神殿は「ヘロデの神殿」と呼ばれています。

ライバルが嫌いだった彼は、東方から来たマギの一団が、ユダヤの王はどこで生まれたのかとエルサレム周辺に問い合わせをしているのを見て、心に平安がなかったことは想像に難くありません。ユダヤの王？ヘロデは王であり、ライバルはいらないと思っていました。

この大きな一団が東方からエルサレムにやって来て、ユダヤの王はどこにいるのかと指導者たちに問いかけたのですから、当然大騒ぎになりました。

4節によると、ヘロデは祭司長たちや律法学者たちを呼び集め、「キリストはどこで生まれるのか」と尋ねたとあります。

5節と6節に預言者ミカの言葉が引用されていますので、ミカ5:2を見てみましょう。 - 「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」

預言者ミカは、メシアは小さな町ベツレヘムで生まれると宣言しています。そこはダビデ王の出身地であり、ダビデの物語を覚えておられるなら、彼が家族の中で一番若い男の子で、あまり重要ではないと思われていたことを覚えておられるでしょう。そして、メシアは、偉大なダビデ王を生んだこの小さな場所でお生まれになり、この謙虚な出発を繰り返すことになるのです。

今日のメッセージの次のパートに進み、そのマギの問いに戻りましょう。

パート4: ユダヤ人の王として生まれた方は、どこにおられるのでしょうか。

マギの物語を考えると、星を読み解く専門家である彼らは、ユダヤ人の王が生まれたことを伝える空の何かを読み取ることができました。しかし、その正確な位置はわかりませんでした。そのためには、ユダヤの首都に問い合わせる必要があったのです。このことは、私たちの人生について教訓を与えてくれます。主は私たちにいくつかの情報を与えてくださいましたが、すべてではありません。主は、私たちが始めるのに十分な情報を与えてくださいますが、すべてを明らかにしてくださるわけではありません。私たちは信仰によって一歩を踏み出し、その過程で、神が始めた旅を完成させるために必要な追加情報を得るために努力しなければならないこともあるのです。クリスチャン生活は、第2コリント5:7にあるように、目で見るとはではなく、信仰によって歩む生活です。しかし、それは能動的な人生であり、受動的な人生ではないことを忘れてはなりません。旧約聖書の信仰深い聖人たちの物語であるヘブル人への手紙11章を読むたびに、私はそこに登場する人々がそれぞれ何かをすることによって信仰を行使したことに驚かされます。何かをします。信仰は行動します。ヘブル11:4-信仰によってアベルはいけにえをささげました。7節-信仰によって、ノアは箱舟を造りました。ヘブル11:8を読みましょう。「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。」「彼はどこに行くのか知らないで出て行ったのです。」これは、ユダヤ人の王が生まれたというしるしを見せられたマギが、彼を探すために旅をして、その途中で質問をしたことを思い起こさせます。

マギの問いに戻りますが、別の角度から見てみたいと思います。マギは地理的な質問をしました。しかし、私は霊的な質問をしたいのです。あなたの人生の中で「ユダヤの王」はどこにいるのでしょうか？あなたにとって、彼は誰ですか？彼はあなたの人生の王ですか？あなたの心の中に君臨している王ですか？それとも、あなたから遠い存在なののでしょうか？

救い主の誕生を祝い、おなじみの物語を聞くこのクリスマスの日、私たち一人ひとりがこの問いについて考えてみたいと思います：あなたの人生の中でイエスはどこにいるのでしょうか？あなたはキリストを自分の救い主として受け入れましたか？あなたは、自分の人生に満足しすぎて、最近イエスが遠くに感じられるようになったクリスチャンでしょうか？イエスへの愛をもう一度取り戻してください。講堂の後ろに「リフト」という看板がありますが、これは今日の礼拝の後に行って、そこにいる人たちにあなたを祈りで引き上げてもらうことができる場所です。祈ってもらうこともできますし、何か必要なことがあれば、もっとお願いすることもできます。もしあなたがまだキリストを受け入れていないなら、イエスとの関

係に入る方法を誰かに聞けば、私たちはあなたに示すことができます。今日、私は看板のところにいるし、他の人たちもそこにいます。私たちはあなたのために祈り、主との歩みの中でお手伝うことができます。

私のクリスマス・メッセージは、これで終わりです。今日、皆さんに神の祝福がありますように。そして、皆さんが毎日、私たちのメシア、私たちの王であるイエスの近くを歩むことができますように。祈りましょう。